



改修工事後の大東橋（東中野5丁目）



改修工事前の万亀橋（東中野1丁目）



改修工事前の柏橋（東中野1丁目）



改修工事後の亀鈴橋（東中野5丁目）



同上改修工事終了後の万亀橋



同上改修工事終了後の柏橋

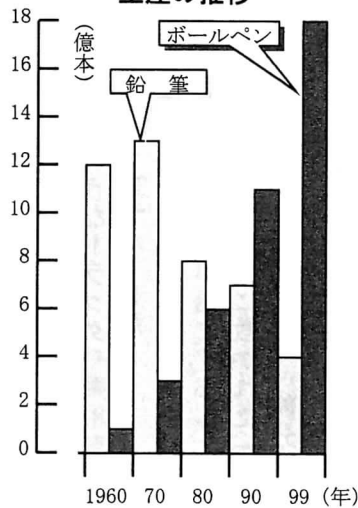
第二〇回

ボールペン発祥の地

昨年の8月7日、読売新聞「東京伝説」のコラム『鉛筆』に「その品質は世界一」という興味のある記事が載っていた。記事中のグラフによると生産本数も昭和41年には14億近くと最高の生産を記録したが、現在はその半分も生産されていない。逆にボールペンは、現在18億近く生産されており、完全に鉛筆の生産を超越してしまった。まだ鉛筆は筆記具として日常必要とされているが、万年筆はどうだろう。一部愛好家が所持している程度、全く姿を消してしまった。そして現在、筆記具の王者とも言えるボールペンがこの東中野五丁目から誕生したことを記憶しておくべきと思う。戦後ハンガリー人が考え米国で実用化したのが、中田機化工業の中田藤三郎社長は更に改良を加えペンシル型の安価で性能の良い製品に仕上げた。昭和27年、その優秀性が認められ発明協会賞が贈られた。中田社長はこのボールペンの試作品が出来た頃、私に1本渡され「万年筆はもう駄目。木でも、ちり紙でも書けるこのボールペンが筆記具の王者になる」そんな言葉が今も脳中にある。

(コラム『鉛筆』より)

生産の推移



■中田藤三郎（なかだ・とうざぶろう）氏 中田機化工業（現オート株式会社）初代社長。明治19年生まれ。大正8年創業。戦前は各種原料の製造、戦後は一時製粉機など製造していたが、のちにボールペンの製造に一本化した。工場は、現在の東中野ハイム（東中野5-23）の場所にあった。企業家でもあったが、戦前戦後を通じて小滝町会の町会長を務め、まちの発展に非常に貢献した。